

【取組内容①】『『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実』

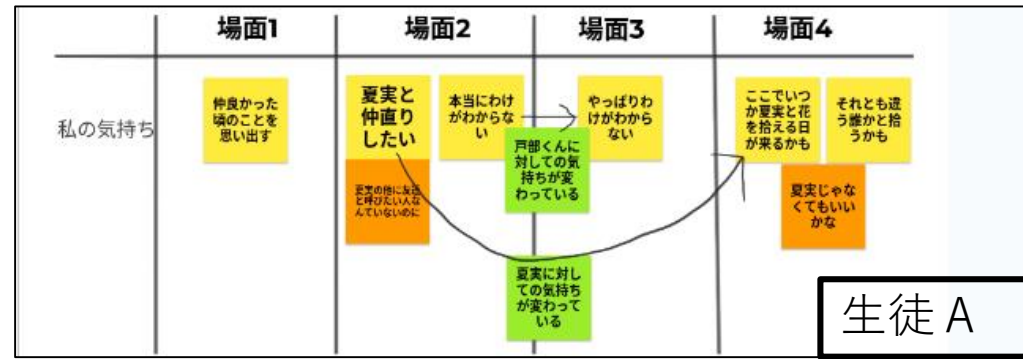
情報活用能力の育成を目指した学習活動

事例概要

本校では、教科横断的な視点に立った資質・能力の1つとして、GIGA端末を用いて情報活用能力の育成を目指した学習活動を行っている。情報を主体的に捉えながら、何が重要かを主体的に考え、見いだした情報を活用しながら他者と協働し、新たな価値の創造に挑める生徒の育成を目指す。

国語科での活動

右の資料は国語科の物語教材の分析に取り組んだ生徒のジャムボードである。生徒Aは主人公の気持ちを場面の変化に対応させながら情報を整理している。生徒Bは中心的な登場人物の心情を表としてまとめている。このように、生徒によってどのように情報を収集し、整理・分析するかは違う。生徒に合った思考の仕方や考え方を行うことで個別最適な学びへと繋がっていくと考える。さらに、各自まとめた内容をクラスメイトに説明する活動を行い、それぞれの思考の仕方や考え方を共有することでより多面的で多角的な思考へ発展すると考える。



生徒A



生徒B

【取組内容①】『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実

体育科での活動

右のジャムボードは体育科での学習活動の資料である。資料Aは、思考ツールを用いて各自が課題解決に向けて情報を収集し、整理・分析したものである。

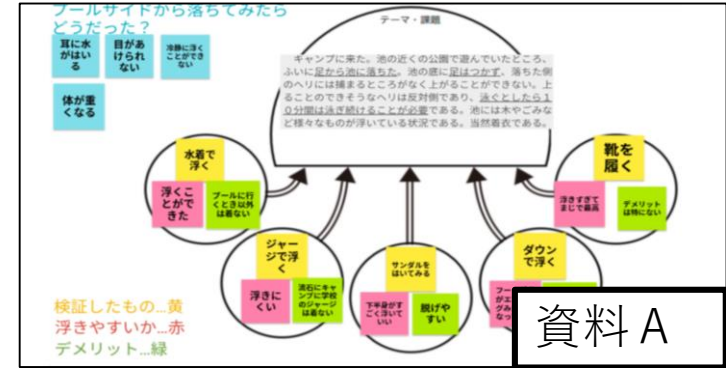
資料Bはゴール型競技を行う単元においてジャムボードが共同編集できる利点をいかし、チームで作戦をまとめた資料である。このような活動をすることで、運動が苦手な生徒も、対話的な活動に積極的に参加し、運動場面においても単元目標に迫る姿が見られるようになった。

このように、体育科においても課題解決に向けて個別最適な学びをすすめ、チーム競技の利点をいかして協働的な学びを実践している。

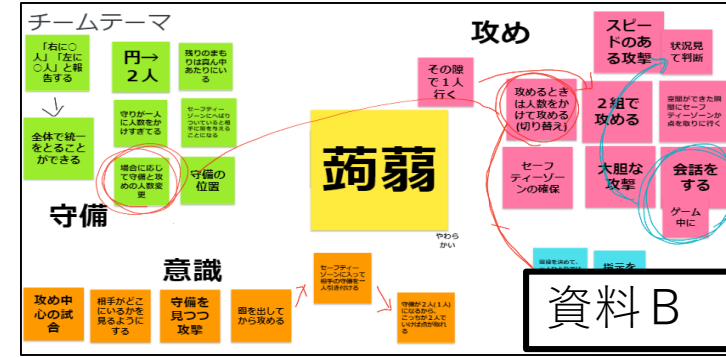
まとめ

以上のように、教科横断的な視点に立った資質・能力の1つとして、GIGA端末を用いた情報活用能力の育成を目指した学習活動を行っている。GIGA端末を用いることで、生徒は情報の収集や整理・分析方法を容易に行うことができ、クラウド環境下でこれまで以上にそれぞれの考え方や思考の仕方を共有しやすくなった。また、教員も各生徒の進捗状況を把握しやすくなり、生徒に必要な支援を講じやすくなった。

教科横断的に行うことで、場面に応じた情報の収集、整理・分析方法を選択できるようになってきた。まさに、情報を主体的に捉え、主体的に考えようとする姿である。



資料 A



資料 B

【取組内容④】 校務の徹底的な効率化や対話的・協働的な職員会議・教員研修

Google Chat を活用した授業検討などの教員研修・情報交換

本校では地区の小学校と連携し、Google Chat で小・中学校の職員をメンバーとしたチャットルームを作成し、授業検討などの教員研修・情報交換に活用した。

授業動画をアップし、いつでも閲覧できるようにするとともに、授業を見た感想やアドバイス等をチャットで交流することで、オンデマンドで授業検討のやり取りを行うことができるようになった。

これまで小・中学校の交流は、時間をとってどちらかに集合することが主流であったが、時間のある時に効率的に研修・交流ができ、ICT活用などについて、より情報交換できるようになった。

また、授業のみならず、講演会の情報交換や資料共有なども簡便にできるため、学校の枠を超えて対話的・協働的な会議を行うことができる。

